

念花

参考文献

「自分の感受性くらい」

茨木のり子



“三寒四温”。二月の頃の季節特有の天気変化を表す言葉です。三日間寒い日(天気の悪い日)があつて、四日間には暖かい(天気の良い日)という気候を捉えたもので、次第に暖かい日が増えてきて、春の訪れを感じさせてくる時期です。日中の陽気や日差しは「いよいよ春?」と思わせてくれますが、今週は再び寒気が居座る予報が出ており、油断できません。二週間後には、公立後期入試が行われます。三年生は特に体調管理に十分注意して、万全な体調で受検を迎えてください。

ところで、春になると、少しずつ草木が芽吹き、花を咲かせます。皆さんは“春の花”と言えどどんな花を思い浮かべますか?多くの方は「桜」と答えるかもしれませんが。

他にもたくさんありますが、私は「梅の花」も大好きです。梅は、多くの俳句や短歌に詠まれる等、昔から日本人に愛されてきた花の一つです。ちょうど今の季節を代表する花で、私の家の近所では、きれいなかわい花を咲かせています。ところで、たいていの木や草は暖かくなつてから花を咲かせるのに、梅の木はなぜまだ寒さの残る時期に花を咲かすのでしょうか?

梅の花の芽は、寒いときにがんばつてじつと寒さに耐え、そして少しでも暖かくなると花を咲かせます。もちろん、桜などの他の植物だつて冬の寒さに耐え、花を咲かすのですが、もつと暖かくならないと咲きません。

ほんのちよつとの暖かさに気づき、それを見逃さない敏感な木が、梅の木であり、昔から暖かさを教えてくれる木だ

と言われています。

私たちの中にも、この梅の木のように、いろんなことを敏感に感じ取る人がいます。周りの友だちのちよつとした変化や表情に気づき、声をかけたり、行動したり...となかなか気づきにくいところも気づける人がいます。このようなものを、“感性”もしくは“感受性”とよぶのだと思います。

「自分から気づいて挨拶する」、「誰かが落としたゴミを拾う」、「欠席した友だちの分の机や椅子を運ぶ」、「困っている様子の友達に声をかける」...感受性が行動に現れます。このような感性が豊かで行動できる人はとても素敵だな、と感じます。

感性(感受性)は、ダイヤモンドと同じように、磨けば美しく輝きます。戦後を代表する詩人である茨木のり子さんの詩集の中に、以下にある『自分の感受性くらい』があります。受験前で何かと慌ただしい気持ちかもしれません。逆に、スマホの世界に入り込んで、現実では他者と交流することを避けてしまふ等、周りを見る余裕を失いがちな人も少なくないと思います。

しかし、“自分を磨く”作業は、“ヒト”が“人間”として成長するためにどんなときも忘れてはいけない作業です。そんな意識を持って、一日一日を大事に過ごしていきたいものです。

自分の感受性くらい

ばさばさに乾いてゆく心を
ひとのせいにはするな
みずから水やりを怠つておいて

気難しくなつてきたのを

友人のせいにはするな
しなやかさを失つたのはどちらなのか

苛立つのを

近親のせいにはするな
なにもかも下手だったのはわたくし

初心消えかかるのを

暮しのせいにはするな
そもそものが ひよわな志にすぎなかった

駄目なこと的一切を

時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい

自分で守れ
ばかものよ